

## インドゾウ舎寝室の床材使用について

井川 阿久里

アジアゾウの飼育について 1994 年の JAZA アジアゾウ飼育マニュアルでは「水洗い可能なコンクリートの床面が好ましい」とされていた。金沢動物園のインドゾウ飼育施設についても展示場、寝室ともに全面コンクリートの床面が用いられている。しかし、飼育技術の向上とともに固い地面で長時間過ごすことがゾウの足へ悪影響を与えることが徐々に明らかになり、2021 年に JAZA が公開した適正施設ガイドラインでは砂やマットなどで柔らかく衛生的な床面を使用することが推奨されている。

金沢動物園では、コンクリートの床面改善のため 2017 年から展示場への砂を導入。2019 年には寝室におが粉の使用を開始した。寝室には外側に木枠設置し、おが粉がある程度の厚みを保持しドアレールに漏れ出ないような処置を行った。日常の管理では汚れた部分を交換する形で、毎月リサイクルプラントより購入した約 2t のおが粉を使用し、さらに年に 2 回一部屋につき約 4t のおが粉を全交換、および消毒作業を行っている。2020 年にはおが粉に加え、日本環境開発株式会社より産業廃棄物となるコーヒー残渣を購入し、床材としておが粉に合わせて使用を開始した。

床面変更によるゾウへの効果について、削蹄の頻度や足裏の状態については数値的な変化は確認できなかった。歩様の改善も推察されるが、複合的要因が多く直接的な評価は難しいと考えられる。2022 年実施した日本大学との共同研究による行動調査においては No. 1 ♂ の夜間寝室における行動について、休息・静止に増加傾向ありという結果が得られた。

寝室へのおが粉の使用により、使用前と比較してゾウの健康状態が改善できたという評価は得られなかった。しかし加齢に伴う健康状態の変化も考えられる中、7 年前と大差のない状態を維持できているという点は評価できるものと考えられる。また寝室の行動レパトリーの増加によるエンリッチメントとしての評価や、来園者に対して動物福祉についての取り組みを紹介する際の事例として教育普及に繋がっている。今後の課題として衛生状態を維持したうえでのより効率的な運用方法や、ゾウの足の状態に関する客観的な評価方法などの検討を行っていきたい。